# 第八回　琉球・中国交渉史に関するシンポジウム　論文集

シンポジウム

呉　元豊 氏

西里喜行 氏

屈　春海 氏

朱　淑媛 氏

真栄平房昭 氏

劉　若芳 氏

陳　宜耘 氏

中国第一歴史档案館門前

# 第八回シンポジウムの開催にあたって

沖縄県教育委員会教育長　仲宗根　用英

第八回琉球・中国交渉史に関するシンポジウムの開催にあたり、日本国沖縄県教育委員会を代表いたしまして、ごあいさつ申し上げます。

沖縄県と中国は、一三七二年に琉球国王が明に進貢を始めてから、一八七九年の廃藩置県にいたるまで、五〇〇年余に渉る長い交流の歴史を持っております。この間、琉球は中国との冊封・進貢関係を軸とし、そこに生まれた人と文物の交流をとおして、中国から多くのことを学び、また大きな影響を受けながら独自の文化を形成してまいりました。今日、沖縄は日本国内有数の観光地となっており、年間五〇〇万人を超す旅行客が訪れます。観光客をひきつける理由の一つとして、沖縄には独自の文化がある、ということがよく言われます。これも、中国との長い友好の歴史の賜であります。

沖縄県教育委員会と中国第一歴史檔案館との学術交流は、一九九一年の開始以来、今年で十五年目となりました。この間、檔案館には琉中関係檔案資料の調査やマイクロフイルムの提供等多大なるご尽力を頂いているところであります。また、『清代琉球国王表奏文書』や『清代中琉歴史関係檔案』等、琉中交流に関する歴史史料の編集出版

もして頂きました。お陰を持ちまして、沖縄県教育委員会の進めております『歴代宝案』の編集事業も、これまでに校訂本十二冊、訳注本五冊を刊行することができました。これらの資料や本は、琉中関係の歴史に係る研究を発展させることに、大きく貢献しております。このことは、私たち双方の長期にわたる友好交流事業の大きな成果であります。この場をお借りして、改めて深く感謝申し上げます。

さて、今回のシンポジウムでは、中国側から中国第一歴史檔案館の朱淑媛女史、呉元豊氏、屈春海氏、劉若芳女史、陳宜耘女史の五名、沖縄側から琉球大学名誉教授の西里喜行先生、神戸女学院大学教授の真栄平房昭先生の二名が発表されます。日・中両国の研究者が一堂に会し、それぞれの専門の立場から、琉中歴史関係について理解を深められますことは、極めて意義深いことであります。このシンポジウムでの研究発表と討論を通して、琉中歴史関係の新たな側面に光があてられ、学問的進展へとつながることを期待いたします。

最後になりますが、この第八回シンポジウムをご準備された中国第一歴史檔案館関係者の方々に感謝申し上げますとともに、シンポジウムの成功とご来席の皆様のご健勝を祈念いたしまして、私のあいさつといたします。

二〇〇六年（平成十八）十一月十三日